

2024年度 第1四半期決算

2024年7月31日
住友商事株式会社

将来情報に関するご注意

本資料には、当社の中期経営計画等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣が中期経営計画を成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四半の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

1. 2024年度第1四半期決算サマリー

- 2024年度第1四半期の四半期利益（親会社の所有者に帰属）は1,263億円。2024年度通期予想に対する進捗率は24%。
- 2024年度通期予想5,300億円、年間配当金（1株当たり）130円（予定）は、いずれも期初公表予想を据え置き。

2024年度第1四半期決算サマリー

(単位：億円)

	2023年度 第1四半期実績	2024年度 第1四半期実績	前年同期比	2024年度 通期予想 (24/5公表)	進捗率
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	1,294	1,263	△31	5,300	24%
一過性損益	170	△10	△180	200	-
一過性を除く業績	1,120	1,280	+160	5,100	25%
うち、資源ビジネス	250	230	△20	1,070	21%
うち、非資源ビジネス	800	1,010	+210	4,070	25%

2024年度 株主還元

2024年度通期予想 (24/5公表)

- 年間配当金(1株当たり) 130円
- 自己株式取得 500億円 (期間：5月7日～6月17日で取得済)

当第1四半期決算のサマリーを記載しています。

当第1四半期の当期利益は1,263億円となりました。

5月に公表しました2024年度通期予想5,300億円に対する進捗率は24%となりました。

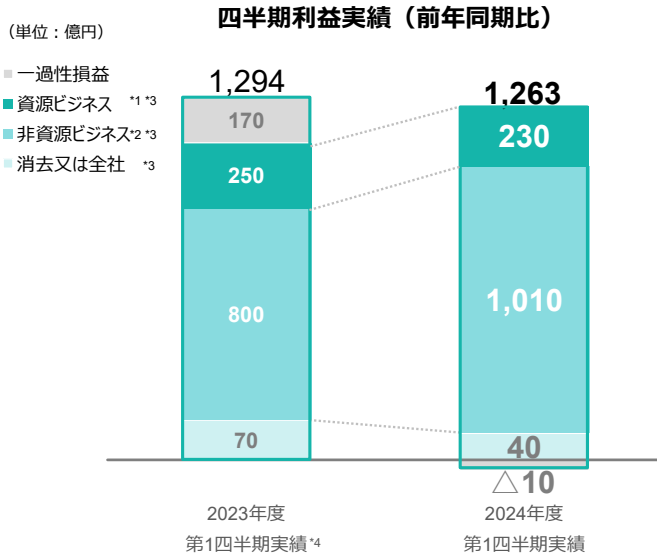
一過性を除く業績では1,280億円と、進捗率は25%となりました。

うち、資源ビジネスは進捗率が21%となっていますが、第1四半期は南アフリカ鉄鋼石事業の持分利益の計上がないことを考慮すると順調な進捗、また、非資源ビジネスは、全体としては進捗率25%と概ね巡航通り進捗しており、円安による業績底上げ効果もあったとはいえ、第1四半期は通期予想に対して順調なスタートになったと考えています。

なお、通期予想5,300億円、1株当たり年間配当金130円は、いずれも期初公表予想を据え置いています。

2. 2024年度第1四半期 実績（四半期利益（親会社の所有者に帰属））

- 当第1四半期の四半期利益（親会社の所有者に帰属）は1,263億円。
- 前年同期比で31億円の減益。（△2%）



ハイライト

- **資源ビジネス（△20億円）**
豪州石炭事業 石炭価格下落
- **非資源ビジネス（+210億円）**
自動車流通販売 堅調
国内不動産事業 堅調
海外発電事業 好調
北米鋼管事業 前年同期好調の反動
アグリ事業 農薬事業における販売数量減
及び前期の天候不順による影響が継続
- **一過性損益（△180億円）**
前年同期 米国タイヤ販売事業
直営小売事業売却に伴う一過性利益あり
- **円安の影響あり**
(参考) USD期中平均レート：2023年度 第1四半期 137.49
2024年度 第1四半期 155.85

^{*1} 資源ビジネスは「資源グループ」と、エネルギー・トランスフォーメーショングループのうち「ガス・ソリューションSBU」の合計です。

^{*2} 非資源ビジネスは全社計から「資源ビジネス」と「消去又は全社」を差し引いて算出しております。

^{*3} 資源ビジネス、非資源ビジネス、消去又は全社の金額は一過性を除く業績を表示しております。

^{*4} 2024年4月1日付の機構改正に伴い、2023年度第1四半期実績の一過性を除く業績の内訳を組み替えて表示しております。

当第1四半期の実績につき前年同期との比較でご説明します。
当第1四半期の「四半期利益」1,263億円は、前年同期比では31億円の減益となりました。

棒グラフは、四半期利益を、「一過性損益」と、
一過性を除く業績のうち「資源ビジネス」「非資源ビジネス」、「消去又は全社」に分けて示しています。

「資源ビジネス」については、230億円となり、20億円の減益となりました。
主に豪州石炭事業における価格下落の影響によるものです。

また、「非資源ビジネス」については、1,010億円となり、210億円の増益となりました。

自動車流通販売や国内不動産事業が堅調に推移したほか、
海外発電事業が好調に推移したこと等により、前年同期と比べ増益となりました。

なお、「一過性損益」は、前年同期に計上した
米国タイヤ販売事業における直営小売事業売却益の反動で、
180億円の減益となりました。

3. 2024年度第1四半期 実績（セグメント別 四半期利益）

2023年度 第1四半期実績：1,294億円（うち、一過性を除く業績：1,120億円）
2024年度 第1四半期実績：1,263億円（うち、一過性を除く業績：1,280億円）

セグメント	四半期利益	増減額	増減要因	(単位：億円)	
鉄鋼	上段：2023年度第1四半期 実績	236	△55	・鋼管：前年同期に好調だった北米事業の反動 ・鋼材：堅調に推移	
	下段：2024年度第1四半期 実績	182			
自動車	72	△156	・自動車流通販売：堅調に推移 ・タイヤ：前年同期 一過性利益あり ・自動車製造・エンジニアリング：当期 一過性損失あり		
輸送機・建機	168	+33	・輸送機：リース事業、船舶事業を中心に堅調に推移 ・建設機械：建設需要の伸びの鈍化、償却費等のコスト負担増により減益		
	200				
都市総合開発	95	+48	・国内不動産事業：堅調に推移		
メディア・デジタル	71	△2	・エチオピア通信事業：立ち上げコスト増加 ・国内主要事業：堅調に推移		
	69				
ライフスタイル	5	△1	・ヘルスケア：国内事業にて調剤報酬改定の影響あり ・欧米州青果事業：メロン事業不調なるもバナナ事業好調		
資源	169	△16	・豪州石炭事業：石炭価格下落		
	153				
化学品・エレクトロニクス・農業	67	+24	・アグリ事業：農薬事業における販売数量減、前期の天候不順による影響が継続 ・ライフサイエンス：当期 一過性利益あり		
	91				
エネルギー・トランスフォーメーション	187	+123	・海外発電事業：好調に推移		
消去又は全社	70	△30			
	40				

セグメントごとの四半期利益の前年同期比増減を示しています。

「鉄鋼」は、前年同期に北米鋼管事業が好調だった反動により、減益となりました。

「自動車」は、前年同期に一過性の利益、当期に一過性の損失がありました。
一過性を除く業績は、自動車流通販売を中心に堅調に推移しております。

「輸送機・建機」は、建設機械は建設需要の伸びの鈍化、償却費等のコスト負担増の影響により減益となったものの、リース事業、船舶事業が堅調に推移したことで、前年同期比で増益となりました。

「都市総合開発」は、国内不動産事業において、案件の引き渡しが堅調に推移したことで増益となりました。

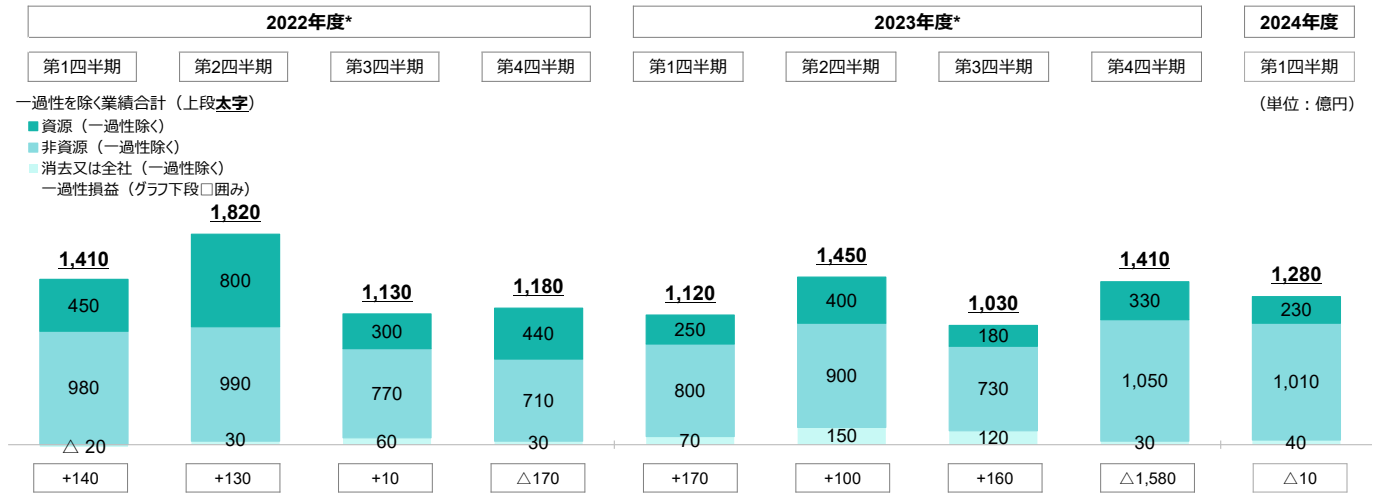
「メディア・デジタル」「ライフスタイル」「資源」は、前年同期比で、ほぼ横ばいになりました。

「化学品・エレクトロニクス・農業」は、当期、ライフサイエンスで一過性の利益がありました。
一過性を除く業績では、アグリ事業が、農薬事業における販売数量減、前期の天候不順による影響が継続し、減益となりました。

「エネルギー・トランスフォーメーション」は、海外発電事業が好調に推移したことで大幅な増益となりました。

4. 一過性を除く業績 四半期推移

- 非資源ビジネスは1,000億円台で推移しており、着実に収益基盤が拡大。



* 2024年4月1日付の機構改正に伴い、2022年度、2023年度の一過性を除く業績の内訳を組み替えて表示しております。

◆ Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

© 2024 Sumitomo Corporation

一過性を除く業績の四半期推移を棒グラフで示しています。
 当第1四半期の非資源ビジネスの一過性を除く業績は1,010億円と、直近1,000億円台で推移しており、着実に収益基盤が拡大しています。

5. 2024年度第1四半期 実績（キャッシュ・フローの状況）

- コアビジネスの着実なキャッシュ創出、計画していた資産入替が順調に進捗。
- 注力事業における成長投資に経営資源を重点的に配分。

(単位：億円)

	中期経営計画2026 3年合計計画 ^{*1} (24/4～27/3)	2024年度 第1四半期実績 (24/4～6)
Cash In		
キャッシュ・フロー収益力 ^{*2}	+20,000	+1,957
資産入替	+8,000	+400
Cash Out		
投資	△18,000～	△1,500
株主還元	△7,000～	△1,264
株主還元後 フリーキャッシュ・フロー (運転資金の増減等を除く)	黒字	△400

ハイライト

キャッシュ・フロー収益力

- コアビジネスが着実にキャッシュを創出

資産入替

- 政策保有株式の売却、米国製薬事業の売却に伴う資金回収 等

投資

- ノルウェー洋上風力支援船保有・運行会社出資
国内外不動産案件の取得
インド都市ガス事業出資 等

株主還元

- 配当金の支払・自己株式の取得

^{*1} 「中期経営計画2026」におけるキャッシュ・フローアロケーション方針は以下の通り。

・株主還元後フリーキャッシュ・フロー（運転資金の増減等を除く）の黒字 ・投資機会・事業環境・キャッシュ・フローの状況等に応じて、株主還元と成長投資に資金を配分し、ROE向上を図る

^{*2} キャッシュ・フロー収益力 = (売上総利益+販売費及び一般管理費（除く貸倒引当金繰入額）+利息収支+受取配当金）×（1-税率）+持分法投資先からの配当+減価償却費+リース負債支払

次に、キャッシュ・フローの状況についてご説明します。

まずキャッシュ・インですが、「キャッシュ・フロー収益力」は、コアビジネスが着実に伸長したことなどにより、1,957億円のキャッシュを創出しました。

「資産入替」では、政策保有株式の売却等により、400億円のキャッシュを回収しています。

一方、キャッシュ・アウトですが、「投資」で、こちらに記載の案件等1,500億円の「投資」を実行しました。

また、「株主還元」は配当金の支払いに加え、期初に公表しました自己株式の取得を実行しました。

6. 2024年度第1四半期 実績（財政状態）

- 円安の影響等により、総資産は11.5兆円に増加。（前期末比約+5,100億円）

(単位：億円)	2023年度末	2024年度 第1四半期末	増減
流動資産	52,357	54,953	+2,596
非流動資産	57,969	60,430	+2,461
資産合計	110,326	115,383	+5,057
その他負債	31,585	32,047	+462
有利子負債 ^{*1} (現預金Net後)	32,017 (25,234)	34,388 (27,123)	+2,370 (+1,888)
負債合計	63,603	66,435	+2,832
株主資本 ^{*2}	44,455	46,517	+2,063
負債及び資本合計	110,326	115,383	+5,057
D/E Ratio (Net)	0.6	0.6	±0.0pt
為替 (円/US\$)	151.41	161.07	+9.66

ハイライト

総資産 +5,057 (115,383←110,326)

- 円安の影響による増加（約+3,400億円）

株主資本 +2,063 (46,517←44,455)

- 円安の影響による増加（約+2,100億円）
- 当期利益の計上
- 配当金の支払・自己株式の取得

^{*1} 有利子負債…社債及び借入金(流動・非流動)の合計（リース負債は含まず）
^{*2} 株主資本…資本の内、「親会社の所有者に帰属する持分合計」

続いて、財政状態についてご説明します。

総資産は、前期末と比べ、約5,100億円増加し、11兆5,000億円となりました。
円安の影響で約3,400億円増加したことなどによるものです。

また、株主資本は、当期利益の計上に加え、為替の影響により、
前期末と比べ、約2,100億円増加したことなどにより、4兆7,000億円となりました。

Net DERについては、0.6倍となりました。

7. 2024年度 通期見通し（セグメント別）

- セグメント毎の進捗はまだら模様ながら、全体としては順調に進捗。
- 低進捗のセグメントは、下期偏重のビジネスを中心に、第2四半期以降の収益改善を見込む。

セグメント	2024年度 通期予想 (24/5公表)	2024年度 第1四半期実績	進捗率	主要事業の進捗及び今後の見通し
鉄鋼	890	182	20%	・鋼管：北米事業は想定より回復の遅れあるも、他地域事業は好調に推移 ・鋼材：堅調に推移
自動車	500	72	14%	・自動車製造・エンジニアリング：第1四半期に一過性損失あり ・自動車流通販売：堅調に推移
輸送機・建機	870	200	23%	・輸送機：リース事業及び船舶事業は堅調に推移 ・建設機械：需要回復による業績改善を見込む
都市総合開発	610	143	23%	・不動産：計画通りの案件引渡しを見込む
メディア・デジタル	290	69	24%	・国内主要事業：計画通りに推移 ・エチオピア通信事業：引き続き立ち上げコストを見込む
ライフスタイル	140	4	3%	・欧米州青果事業：バナナ事業の好調維持を見込む ・ヘルスケア：国内外での事業規模拡大に伴う収益増を見込む
資源	800	153	19%	・南アフリカ鉄鉱石事業：第2・4四半期に持分利益計上あり
化学品・エレクトロニクス・農業	450	91	20%	・基礎化学品・エレクトロニクス：堅調に推移 ・アグリ事業：第2四半期以降の需要期における販売回復を見込む
エネルギー変換	810	310	38%	・海外発電事業：好調に推移 ・国内電力小売事業・ガスバリューチェーン：堅調に推移
消去又は全社	△60	40	-	
合計	5,300	1,263	24%	

セグメント毎の進捗はまだら模様ながら、全体としては順調に進捗しています。

「鉄鋼」は、鋼管について、北米事業で想定より回復の遅れがありますが、他地域事業は好調に推移しています。

「自動車」は、第1四半期に一過性損失を計上しました。一過性を除く業績では、引き続き堅調な推移を見込みます。

概ね巡航通り進捗している「輸送機・建機」「都市総合開発」「メディア・デジタル」は、引き続き堅調な推移を見込みます。

「ライフスタイル」は、ヘルスケア事業における国内外の事業規模拡大により、下期の収益改善を見込んでいます。

「資源」は、第2、第4四半期での南アフリカ鉄鉱石事業の持分利益の取込みがあり、堅調な推移を見込みます。

「化学品・エレクトロニクス・農業」は、アグリ事業が第2四半期以降に需要期を迎えることから収益改善を見込んでいます。

海外発電事業が好調な「エネルギー変換」は第2四半期以降も、業績を牽引することを見込みます。

7. 2024年度 通期見通し（セグメント別）

- セグメント毎の進捗はまだら模様ながら、全体としては順調に進捗。
- 低進捗のセグメントは、下期偏重のビジネスを中心に、第2四半期以降の収益改善を見込む。

セグメント	2024年度 通期予想 (24/5公表)	2024年度 第1四半期実績	進捗率	主要事業の進捗及び今後の見通し
鉄鋼	890	182	20%	・鋼管：北米事業は想定より回復の遅れあるも、他地域事業は好調に推移 ・鋼材：堅調に推移
自動車	500	72	14%	・自動車製造・エンジニアリング：第1四半期に一過性損失あり ・自動車流通販売：堅調に推移
輸送機・建機	870	200	23%	・輸送機：リース事業及び船舶事業は堅調に推移 ・建設機械：需要回復による業績改善を見込む
都市総合開発	610	143	23%	・不動産：計画通りの案件引渡しを見込む
メディア・デジタル	290	69	24%	・国内主要事業：計画通りに推移 ・エチオピア通信事業：引き続き立ち上げコストを見込む
ライフスタイル	140	4	3%	・欧米州青果事業：バナナ事業の好調維持を見込む ・ヘルスケア：国内外での事業規模拡大に伴う収益増を見込む
資源	800	153	19%	・南アフリカ鉄鉱石事業：第2・4四半期に持分利益計上あり
化学品・エレクトロニクス・農業	450	91	20%	・基礎化学品・エレクトロニクス：堅調に推移 ・アグリ事業：第2四半期以降の需要期における販売回復を見込む
エネルギー変換	810	310	38%	・海外発電事業：好調に推移 ・国内電力小売事業・ガスバリューチェーン：堅調に推移
消去又は全社	△60	40	-	
合計	5,300	1,263	24%	

(前頁から続く)

冒頭でご説明の通り、第1四半期時点では期初公表予想の5,300億円を据え置いています。第2四半期以降も概ね足元の景況感が継続すると見えますが、各国の金融政策や、為替、商品市況の動向を注視の上、それらが業績に与える影響について、第2四半期決算に向けて精査して参ります。

最後に、中期経営計画2026が開始して4か月が経過しました。新たな組織のもとで、No.1事業群の実現に向けた、戦略議論を深め、具体的なアクションへの落とし込みを進めています。

中期経営計画の取り組みを着実に実行し、確りと目に見える成果を積み上げて参ります。

以上